

# 日本子ども社会学会 第20回大会

## 大会の日程

1. 期日 2013年6月29日(土)・30日(日) 2日間

2. 会場 関西学院大学(西宮上ヶ原キャンパス:兵庫県西宮市)

### 3. 日程

前日 6月28日(金)

15:00~16:50 各種委員会(大学院棟 1階 会議室)  
会計監査(大学院棟 1階 会議室)  
17:00~19:00 理事会(大学院棟 1階 会議室)

第1日 6月29日(土)

9:00~ 受付(G号館 2階 玄関ホール)  
9:30~12:00 研究発表I(G号館 2階)  
12:00~12:40 昼食 新理事会(G号館 1階 106教室)  
12:40~13:30 総会(G号館 2階 202教室)  
13:30~15:30 テーマセッション(G号館 2階)  
15:40~17:40 シンポジウム(G号館 2階 202教室)  
18:00~20:00 懇親会(関学会館)

第2日 6月30日(日)

9:00~ 受付(G号館 2階 玄関ホール)  
9:30~12:00 研究発表II(G号館 2階)  
12:00~13:20 昼食 新評議会 各種新委員会  
13:20~15:20 研究発表III(G号館 2階)  
15:30~17:30 ラウンドテーブル(G号館 2階)

## ご案内

### 1. 会場

関西学院大学 上ヶ原キャンパス

### 2. 大会実行委員会連絡先

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

関西学院大学 教職教育研究センター 気付

日本子ども社会学会第20回大会実行委員会

E-mail [ominamim@kwansei.ac.jp](mailto:ominamim@kwansei.ac.jp) (教職教育研究センター 南本)

なお、入会、学会費納入などに関する相談・問い合わせは、  
下記の日本子ども社会学会事務局へお願いします。

日本子ども社会学会 事務局

〒114-0033 東京都北区十条台1-7-13

東京成徳大学子ども学部 永井(聖)研究室 気付

FAX : 03-3907-6195

郵便振替口座 : 01760-1-85048

E-mail [jscs@kodomocuo.jp](mailto:jscs@kodomocuo.jp)

学会ホームページ <http://js-cs.jp/>

### 3. 大会参加費

大会参加費 学会員 3,500円 大学院生・臨時会員 3,500円

(公開シンポジウム、テーマセッションのみの参加者は無料です)

### 4. 懇親会 6月29日(土) 18:00 ~ : 関学会館(構内案内図に表示)

会費 一般会員・臨時会員 4,000円 大学院生 3,000円

\*当日受付です。気軽に参加し、研究情報を交換し、懇親を深めてください。

### 5. 受付

6月29日(土)・6月30日(日) 9:00~16:00

G号館 2階 玄関ホールにて受付を行います。

なお、6月30日(日)に予定されております、各種委員会の会場は、当日の受付でお知らせいたします。

## 6. 研究発表

個人（1人）：発表20分・質疑応答5分・計25分

共同（発表者2人以上）：発表40分・質疑応答10分・計50分

## 7. 発表取り消し（欠席）

発表を取り消す（発表者が欠席する）場合には、6月27日（木）までに大会実行委員会までメール等でお知らせください。なお、発表取り消しについては、「学会ニュース」にその旨掲載することになっております。

## 8. 当日発表資料

レジュメ等の発表資料を配布される場合には、50部以上ご用意ください。不足の場合、大会本部でのコピーはいたしかねますので、予めご了承ください。なお、用意された配布資料等は、発表前に会場係にお早めにご提出ください。

## 9. クローク

6月29日（土）・6月30日（日）に、G号館1階108教室に用意します。

なお、貴重品はお預かりできませんので、必ず各自でお持ちください。

## 10. 会員休憩室

発表教室との兼ね合いから、次のように会員休憩室を設けます。

なお、校舎内は全面禁煙です。

6月29日（土）：207教室

6月30日（日）：202教室

## 11. 昼食

6月29日（土）は、学内食堂が営業しております。なお、学生等一般利用者と一緒の利用になることをあらかじめご了承ください。

6月30日（日）は、ご不便をおかけ致しますが、学内食堂は営業せず、近隣で営業する店舗は少ないです。弁当が必要な方は、午前中に受付まで申し出てください、ご相談させていただきます。

## 12. 宿泊

関西学院大学（上ヶ原キャンパス）の徒歩圏内には宿泊施設はありません。

宿泊施設は、大学に近い阪急線の宝塚駅や宝塚南駅周辺に少しありますが、JR大阪駅・阪急梅田駅周辺、あるいは新幹線JR新神戸駅の隣の阪急三宮駅周辺には多数の宿泊施設があり、どちらも阪急線で1時間圏内にあります。

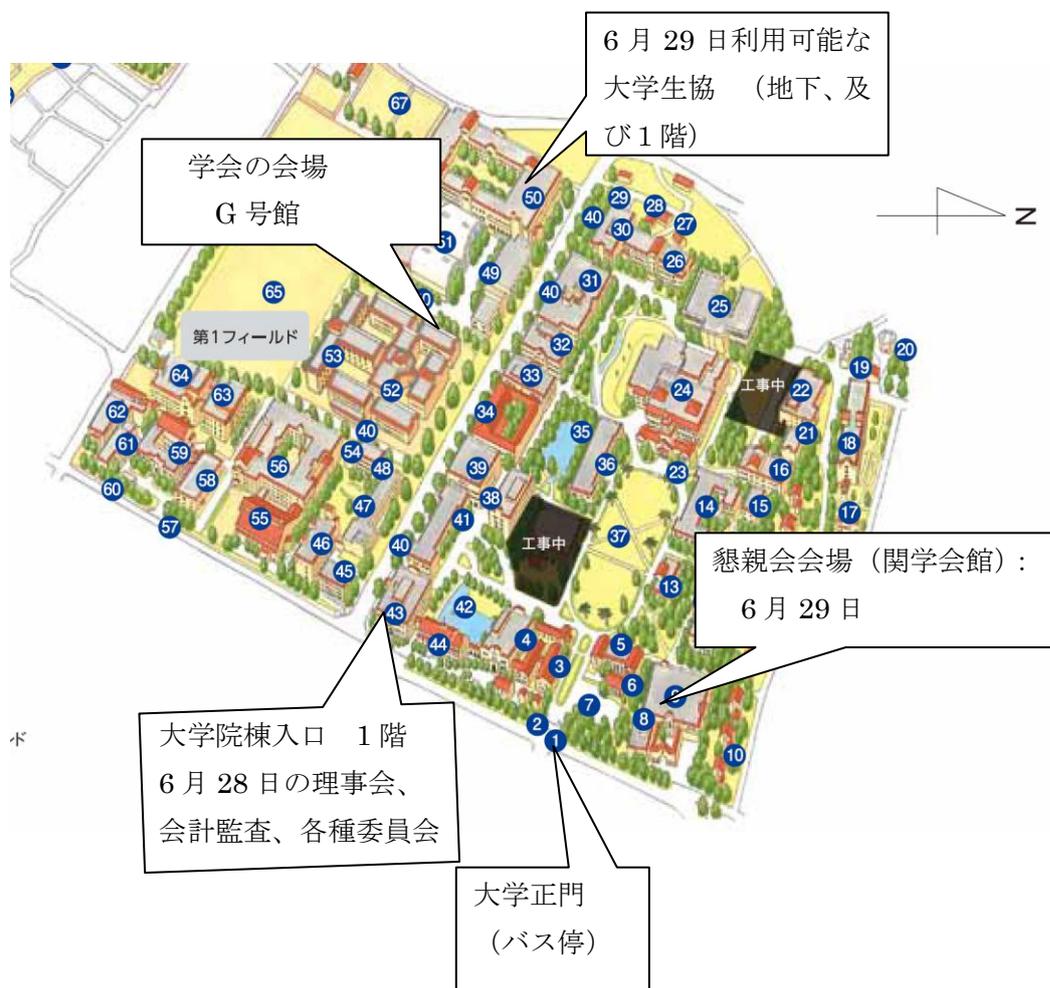
## 関西学院大学 上ヶ原キャンパスへのアクセス

### アクセス方法



- 阪急甲東園駅からは、阪急バス（210円）があります。
- 徒歩の場合は、阪急仁川駅からの方が楽だと思います。

## 関西学院大学 上ヶ原キャンパス 構内案内図



- ①と②は、正門です。
- 43番の大学院棟の1階会議室で、6月28日の理事会、会計監査、各種委員会を開きます。（正門から入らずに、バス停から道路に沿ってお進みください）
- 大会会場は、G号館です。体育館側に入口があります。（正門から入らずに、バス停から道路に沿ってお進みください）
- 懇親会場は、9番の関学会館です。
- 日曜日は、生協食堂は営業しておりません。

# 会場案内図 G号館



1階



2階

## 研究発表 I

6月29日(土) 9:30~12:00

G号館 2階 203教室

### I-1 学校教育と子ども(1)

司会 山田 浩之(広島大学)

白松 賢(愛媛大学)

- 9:30~9:55 特別支援学校という場の意味  
—障害児施設から通う発達障害生徒の語りから—  
堤 英俊(東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員)
- 9:55~10:20 小中一貫校における異校種間学校文化の相克に関する研究  
遠藤 宏美(宮崎大学)
- 10:20~10:45 中学生の学校文化に対する意識調査(I)  
○田中 理絵(山口大学)  
原田 拓馬(山口大学大学院)
- 10:45~11:35 教科書のデジタル化と子ども  
○岡崎 友典(放送大学)  
○佐野 秀行(大阪人間科学大学)  
小原 孝久(上智大学非常勤講師)  
伊藤 静香(放送大学非常勤講師)  
鈴木 秀男(東京都江戸川区教育研究所(非))  
武内 清(敬愛大学)  
浜島 幸司(立教大学)  
谷田川 ルミ(芝浦工業大学)  
山口 晶子(上智大学大学院)
- 11:35~12:00 総括討論

## 研究発表 I

6月29日(土) 9:30~12:00

G号館 2階 204教室

### I-2 子ども研究(1)

司会 新富 康央 (國學院大学)

加野 芳正 (香川大学)

- 9:30~9:55 行動の成熟に関する調査  
木下 昌也 (志學館大学)
- 9:55~10:20 小学生の学校生活や放課後の過ごし方に関する日独比較  
藤井 徳子 (富山県射水市立射北中学校)
- 10:20~10:45 「子ども」の歴史をどう見るか  
—子ども/大人の複層性・身体の実体性/構築性  
元森 絵里子 (明治学院大学)
- 10:45~11:35 大学生の「生徒化」をめぐって  
報告① 大学生の「生徒化」、子ども化論の整理・検討  
○武内 清 (敬愛大学)  
報告② 大学在学時間にみられる大学生の「生徒化」  
○浜島 幸司 (立教大学)
- 11:35~12:00 総括討論

## 研究発表 I

6月29日(土) 9:30~12:00

G号館 2階 205教室

### I-3 児童文化・子ども文化

司会 川勝 泰介 (京都女子大学)

内藤 知美 (東京都市大学)

- 9:30~9:55 小学校図書館における子どもへの読書支援  
狩野 博美 (関西大学大学院)
- 9:55~10:20 集英社刊行雑誌『おもしろブック』が求めた読者像とその背景  
田中 卓也 (共栄大学)
- 10:20~10:45 子どもの「不読」傾向の背景要因に関する一考察  
—「第57回 学校読書調査」の分析結果を手がかりとして—  
腰越 滋 (東京学芸大学)
- 10:45~11:10 子どもはどのように「妖怪」に出会うのか?  
—「学校の怪談」の内容分析をもとに—  
吉岡 一志 (山口県立大学)
- 11:10~11:35 インド映画における「ストリートチルドレン」の表象  
針塚 瑞樹 (九州大学)
- 11:35~12:00 総括討論

## 研究発表 I

6月29日(土) 9:30~12:00

G号館 2階 206教室

### I-4 子どもへの支援

司会 山縣 文治 (関西大学)

古賀 正義 (中央大学)

- 9:30~9:55 児童養護施設におけるジェンダー・カテゴリーの使用  
山口 季音 (関西大学大学院)
- 9:55~10:45 子育て支援におけるネットワークづくりの動態  
ー交錯する民と民, 民と官の関係ー  
○飯田 浩之 (筑波大学)  
○渡辺 恵 (明治学院大学非常勤講師)
- 10:45~11:35 わが国の「養育里親」の現状と里子の心的世界に関する考察  
ー平成24年度全国養育家庭への悉皆アンケート調査から  
○深谷 昌志 (東京成徳大学)  
○深谷 和子 (東京成徳大学)
- 11:35~12:00 総括討論

6月29日(土) 13:30~15:30

G号館 2階 201教室

## 20周年プレ大会記念テーマセッション

「子ども社会学会における研究の可能性—学会の歩みと学会の未来をみつめて」

発表者	坪井 瞳 (浦和大学)
	針塚 瑞樹 (九州大学)
	湯地 宏樹 (鳴門教育大学)
	吉澤 茉帆 (山口県立大学)
指定討論者	麻生 武 (奈良女子大学)
司会	山田 富秋 (松山大学)
企画	20周年記念事業実行委員会

20周年記念事業実行委員会では、学際的研究を特色とする本学会における研究の可能性を模索しながら、第17回大会(京都女子大学)で「歴史的アプローチによる子ども社会研究の可能性を探る」、第18回大会(明星大学)で、「子ども社会」とは何か?」、それぞれのテーマセッションを行ってきました。そこでは、子ども社会学会における学際的研究に感じる魅力と同時に、学際的研究を標榜しながらも特定の領域に偏りがちな現実、学際的研究における方法論の確立の困難さなどが指摘されてきました。

そこで、次年度に20周年記念大会を迎えるにあたり、これまでの子ども社会学会における研究について感じてきたこととこれからの研究のあり方について、若手会員からそれぞれの研究領域や自身の研究を踏まえながら発表してもらい、それらをもとにフロアーに参集した会員たちと学会における研究のあり方について活発な議論を展開したいと思います。

学会内での共同研究のあり方と可能性、若手会員を中心とした研究交流の場の設置、共通のテーマへの多領域からのアプローチによる研究成果の発表、学会大会におけるラウンドテーブルの活性化、学会紀要の位置づけなど、様々な問題を議論する中から、今後の学会の活性化と研究の活性化の参考になる意見が多数出され、学会における研究の新たな第一歩になることを期待しています。

## テーマセッション1

6月29日(土) 13:30~15:30

G号館 2階 203教室

### 子どもと仕事 2

#### 「家庭における職業的社会化問題」

<ねらい>

昨年度のテーマセッション「子どもと仕事①」は、子どもの職業観や勤労観を育む「キャリア教育」に焦点を当て、学校教育にキャリア教育が導入されるにいたった背景や現状を、政府や経済界等からの報告書をテキストに検討した。

他方で、子どもの職業観や勤労観を考えるに当たっては、学校教育だけで考えても限界がある。特に初等教育段階やそれ以前においては、家庭教育の果たす役割が非常に大きいと思われる。例えば、国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2002)が公表している「職業観や勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」には、小学校低学年次における職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度として、「作業の準備や片付けをする」「決められた時間やきまりを守ろうとする」等が挙げられている。こうした「しつけ」の範疇にある事項が挙げられていることから、「家庭における職業的社会化」が、子どもの職業観や勤労観を育むことと関連して考えられていることがわかるだろう。

歴史的にみれば、子どもは常に労働力として期待される場所が大であった。ところが、社会の学校化は子どもを<仕事>から切り離し、教育の対象として位置づけることになった。そのことによって、「仕事をする」気分が希薄になり、「働くこと」や「職業を選ぶ」ことを社会全体で考えざるを得なくなっているのである。

本テーマセッションでは、「家庭における職業的社会化問題」に焦点を当て、家庭では仕事に向けての社会化がどのように行われているのか、歴史のなかで子どもは「労働」とどのように関わってきたのか、これらのことを考えていきたい。

司会：浜島 幸司(立教大学)

報告者1：葛城 浩一(香川大学) 「家庭における職業的社会化の効果」

報告者2：西本 佳代(山口福祉文化大学) 「家庭における職業的社会化の現状」

報告者3：加野 芳正(香川大学) 「歴史的にみた子どもと仕事」

コメンテーター：細辻 恵子(甲南女子大学)

## テーマセッション2

6月29日(土) 13:30~15:30

G号館 2階 204教室

### 子どもの貧困・格差と中退問題

発表者 古賀 正義 (中央大学)  
牧野 智和 (早稲田大学非常勤)

討論者 西田 芳正 (大阪府立大学)

#### 【問題提起】

#### 高校中退以後の再就学・就業行動についての東京都調査からの考察

高校中退という現象へのアプローチを雑駁に二分するならば、それは不適応を起し中退するに至る本人に注目する立場と、不適応を生じさせるような社会経済的背景に注目する立場とで分けられるように思う。だがいずれの立場においても、プロセスという観点からすれば、「中退するまで」にそのまなざしの多くが注がれてきたといえる。具体的には、中退という現象が生起する心理的、あるいは社会経済的特性の分析や、中退を未然に防ぐための効果的な指導・支援方策の検討などが、これまでの高校中退研究の中核にあった。もちろん、「中退するまで」の研究が重要であることは間違いないし、今回の発表でも、その点をまずは取り上げる。

だがその一方で、中退率のピークは去ったとはいえ、今でも5万人強の高校生が毎年高校を中退しているという事実を考えると(平成23年度 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査)文部科学省)、「中退してから」の研究もまた重要であるとはいえないだろうか。

本報告では、2012年に行われた東京都立高校中退者調査を素材として、高校中退者が中退するまでと中退以後にどのような活動を行っているのか、特に中退までのさまざまな問題への埋め込みの現状と、再就学行動・就業行動がいかなる心理・社会経済的特性によって促進されているのかを検討したい。このことによって、中退者を一括りにして捉えるのではなく、中退者の志向に応じた適切な支援の方策、適切な支援資源の配分について考える一助としたい。

6月29日(土) 15:40~17:40

G号館 2階 202教室

## 公開シンポジウム

### 「教育現場における体罰」のとりえ方

○司会 小針 誠 (同志社女子大学)

○報告者

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 中学校・高校の運動部活動における体罰 | 富江 英俊 (関西学院大学)  |
| 2. 懲戒・体罰の比較法制論        | 大津 尚志 (武庫川女子大学) |
| 3. 体罰の言説分析            | 越智 康詞 (信州大学)    |

昨年末におこった桜宮高校での生徒自殺の事件以来、学校現場における体罰が大きな社会的問題となっている。にもかかわらず、「何をもって体罰と言うのか」という定義があいまいであるのに加えて、体罰の是非についての意識は個々人の体罰経験や認識に大きく影響されることなどから、体罰に関する議論は、つねに拡散する傾向があることは否めない。マスコミ報道においては、体罰を与えた当事者を非難し、体罰がなく成功している実践例を出して、「体罰はなくせる」と決めつける、といった単純なストーリーが目立つ。

体罰の是非や予防策を考える前段階として、体罰を議論する土台づくりが必要なのである。そこで、本シンポジウムでは、「教育現場における体罰」を様々な視角・立場から取り上げ、「体罰」という言葉が持つ多面的な内容と文脈を明らかにする。その上で、子ども社会を研究するにあたって、体罰の問題をどのようにとらえることが適切なのか、という点について考えていくことにしたい。教育段階の別を越えて、体罰問題に対する様々な意見や見解を提示しあい、子ども社会における体罰研究の認識を深め、新たな研究課題が提起されることを期待したい。

## 研究発表 II

6月30日(日) 9:30~12:00

G号館 2階 203教室

### II-1 学校教育と子ども(2)

司会 須田 康之(兵庫教育大学)

安東 由則(武庫川女子大学)

- 9:30~9:55 学校を主体的に改革する教師の職業的社会化に関する研究  
—私立高校教師への注目(1)—  
原田 拓馬(山口大学大学院)
- 9:55~10:20 総合学科高校における進路選択  
—卒業後の追跡調査から—  
小西 尚之(北陸大学)
- 10:20~11:10 専門学校進学の要因構造とその変容  
○片山 悠樹(愛知教育大学)  
○西田 亜希子(京都精華大学)
- 11:10~11:35 専門高校における「教育内容の有意性」の認識と進路展望  
—商業科での質問紙調査に基づいて—  
岡部 善平(小樽商科大学)
- 11:35~12:00 総括討論

## 研究発表 II

6月30日(日) 9:30~12:00

G号館 2階 204教室

### II-2 子ども研究(2)

司会 押谷 由夫(昭和女子大学)

太田 佳光(愛媛大学)

9:30~9:55

「子どもの犯罪被害」に関する報道言説の通時的変化

—<被害防止対策>拡大の源を探る—

桜井 淳平(筑波大学大学院)

9:55~10:20

小学校教育における日記交換による子ども理解の方略

木村 学(文京学院大学)

10:20~10:45

学校を離脱した子どもの社会的自立とリテラシー

—5人の語りから—

松下 一世(佐賀大学)

10:45~11:10

教育実践記録のなかの教師と生徒

—人権教育の事例による—

原田 彰(広島大学名誉教授)

11:10~12:00

総括討論

## 研究発表 II

6月30日(日) 9:30~12:00

G号館 2階 205教室

### II-3 地域社会と教育

司会 住岡 英毅 (大阪青山大学)

馬居 政幸 (静岡大学)

- 9:30~9:55 地域の教育力探究の一考察  
—子どもの放課後生活を通して—  
三好 正彦 (大阪女子短期大学)
- 9:55~10:20 自治体放課後ケア対策における放課後子どもプランの実施形態  
と規定要因に関する研究  
鈴木 瞬 (筑波大学大学院)
- 10:20~10:45 地域における子どもの育成と学校教育との連携可能性  
春日 清孝 (明治学院大学非常勤講師)
- 10:45~11:10 学校の組織化による地域の教育力の形成  
—公立中学校における課題の検討—  
鈴木 秀男 (東京都江戸川区教育研究所(非))
- 11:10~12:00 総括討論

## 研究発表 II

6月30日(日) 9:30~12:00

G号館 2階 206教室

### II-4 保育者(1)

司会 中坪 史典 (広島大学)  
戸江 茂博 (神戸親和女子大学)

- 9:30~9:55 地域に生きる幼稚園  
菅澤 順子 (西宮共同幼稚園)
- 9:55~10:20 少人数異年齢保育の成立構造  
ーへき地保育所の事例からー  
長津 詩織 (釧路短期大学)
- 10:20~10:45 「間」と保育者の専門性  
岩崎 成美 (市川町立甘地保育所)
- 10:45~11:10 「ながら行為」としての保育者の専門性について  
ー登園時から設定保育に至るまでー  
○智谷 思音 (広島大学大学院)  
保木井 啓史 (広島大学大学院)  
中坪 史典 (広島大学)
- 11:10~11:35 保育者の実践コミュニティに関する研究  
ーその発生と発展プロセスに着目してー  
香曾我部 琢 (宮城教育大学)
- 11:35~12:00 総括討論

## 研究発表 III

6月30日(日) 13:20~15:20

G号館 2階 203教室

### III-1 教育・保育の歴史

司会 田中 亨胤 (近大姫路大学)

日浦 直美 (関西学院大学)

- 13:20~13:45 戦前期の小学校教師の地域社会認識と教育実践  
—竹内利美の郷土教育実践の事例から—  
牧野 修也 (神奈川大学非常勤講師)
- 13:45~14:10 昭和初期における「全日本保育連盟」の活動に関する研究  
和田 真由美 (近大姫路大学)
- 14:10~14:35 沖縄の字公民館幼稚園の研究  
—沖縄島・具志川村の公立幼稚園促進運動を中心に—  
嘉納 英明 (名桜大学)
- 14:35~15:20 総括討論

## 研究発表 III

6月30日(日) 13:20~15:20

G号館2階 204教室

### III-2 保育者(2)

司会 神長 美津子 (國學院大学)  
渡辺 桜 (名古屋学芸大学)

- 13:20~13:45 ビジュアル・シンキングによる園内研修の試み  
ー保育者が語る「楽しさ」に着目してー  
○濱名 潔 (広島大学大学院)  
保木井 啓史 (広島大学大学院)  
境 愛一郎 (広島大学大学院)  
中坪 史典 (広島大学)
- 13:45~14:10 紙芝居に対する保育者の意識と実践(2)  
ー保育経験年数16年以上の保育者を対象にー  
○小島 千恵子 (名古屋柳城短期大学)  
鬢櫛 久美子 (名古屋柳城短期大学)  
高瀬 慎二 (名古屋柳城短期大学)
- 14:10~14:35 保育臨床研究のあり方に対する批判的検討  
ー理論と実践をどう構想するかー  
小川 博久 (東京学芸大学)
- 14:35~15:20 総括討論

## 研究発表 III

6月30日(日) 13:20~15:20

G号館2階 205教室

### III-3 保育

司会 萩原 元昭 (群馬大学)

青井 倫子 (愛媛大学)

- 13:20~13:45 境界における柔軟さ、あいまいさとはなにか  
: テラスという環境が幼児にもたらす行為の可能性  
境 愛一郎 (広島大学大学院)
- 13:45~14:10 幼児の協同的な活動における子ども-子ども関係の研究  
- 偶発的要因の視点から -  
保木井 啓史 (広島大学大学院)
- 14:10~14:35 乳児のなめる行為と感覚運動に関する発達と保育  
- あそび場面を通しての一考察 -  
大橋 喜美子 (神戸女子大学)
- 14:35~15:20 総括討論

## 研究発表 III

6月30日(日) 13:20～15:20

G号館 2階 206教室

### III-4 家族と子ども

司会 細辻 恵子 (甲南女子大学)

佐野 茂 (大阪商業大学)

- 13:20～13:45 離婚後の面会交流  
—離婚母子家庭の母親へのアンケート調査から—  
上村 昌代
- 13:45～14:10 乳幼児をもつ母親の育児ストレスの共分散構造分析  
池田 隆英 (岡山県立大学)
- 14:10～14:35 家庭の充足感についての比較研究  
—1981年調査との対比から—  
○深谷 野亜 (松蔭大学)  
深谷 昌志 (東京成徳大学)  
秦 政春 (上海海洋大学・同済大学)  
劉 曉芳 (同済大学)
- 14:35～15:20 総括討論

## ラウンドテーブル

6月30日(日) 15:30~17:30

G号館 2階 207教室

テーマ「うたと語りで子どもとつながろう」

### 1) コーディネーター

鵜野 祐介 (立命館大学教授)

### 2) 基調報告者

- ・ もり・けん (童謡伝道マガジン「ふんふん」発行者、ハーモニカ奏者)
- ・ 尾崎 拓也 (奈良市音声館館員)
- ・ 鵜野 祐介

### 3) 内容

前回大会(横浜市、国学院大学)に続いて、子守唄やわらべうたによる子育て・親育ちについて考えるラウンドテーブルです。今回は、関西を拠点に長年にわたって創作童謡や唱歌も含めた「子どもうた」の普及活動に努めてこられたもり・けん氏、地元奈良のわらべうたを中心とする伝承児童文化の継承と普及活動に努めてこられた奈良市音声館の館員の方、各々に30分の基調報告をしていただくとともに、コーディネーター自身も「歌い語る声の力で子どもとつながる」ことの意味について若干の問題提起をさせていただきます。後半は、参加者全員で自由な談論を交わすと同時に、「うたと語りによる子育て・親育ちの支援ネットワーク(略称「うたかたネット」)」の構築に向けた具体的なプランを練っていきたいと思います。

子育て支援の活動や図書館サービスの活動に関わっておられる方、保育や教育現場でうたや語りの実践をしておられる先生方、その他、「歌い語る声の力」に関心を持つすべての皆様のご参加をお待ちしております。(鵜野祐介)

## ラウンドテーブル

6月30日(日) 15:30~17:30

G号館 2階 208 教室

テーマ 日本子ども社会学会は日本の子どもたちに必要な学会か? (1)

1) コーディネーター・司会

望月 重信 (明治学院大学名誉教授)

2) 提案者

池田 隆英 (岡山県立大学)

大倉 健太郎 (大阪女子短期大学)

作野 友美 (大阪芸術大学短期大学部)

原 史子 (金城学院大学)

### 内容

学会論ではなく、子ども研究のアカデミックサークルにおいていま、何が求められているかを探究する。子ども、また子ども社会に関わる次の3点を中心に問題提起を行う。

- ① 提案者の各専門の立場から、子ども研究にどうアプローチするか?
- ② 「専門」に拘泥せず、いまの「子ども社会」をどう捉え、現代社会とどうリンクするか?
- ③ 大学の授業や日常生活の中で源泉としての子どもにいかに関わっているのか(言説実践)?

## ラウンドテーブル

6月30日(日) 15:30~17:30

G号館 2階 209教室

テーマ 現代の子どもにとっての遊びとはなにか

- 1) コーディネーター  
小川 博久 (東京学芸大学)
- 2) 司会者  
岩田 遵子 (東京都市大学)
- 3) 提案者  
松田 恵示 (東京学芸大学)  
萩原 元昭 (群馬大学)  
小川 博久 (東京学芸大学)
- 4) 指定討論者  
請川 滋大 (日本女子大学)

(内容)

現在、保育関係者や社会教育関係者は子どもの遊びの重要性を指摘し、遊びを育てることを必要だと考えている。しかし、市井では子どもの遊びはすでにその姿はない。いたい現代の子どもにとって遊びとはなにかを問い直したい。

日本子ども社会学会 第20回大会 実行委員会

実行委員長 南本 長穂 (関西学院大学教職教育研究センター)  
実行委員 日浦 直美 (関西学院大学教育学部)  
富江 英俊 (関西学院大学教育学部)  
小谷 正登 (関西学院大学教職教育研究センター)

日本子ども社会学会 第20回大会 プログラム

発行 2013年5月

発行者 日本子ども社会学会 第20回大会 実行委員会

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

関西学院大学 教職教育研究センター気付

日本子ども社会学会第20回大会実行委員会

E-mail [ominamim@kwansei.ac.jp](mailto:ominamim@kwansei.ac.jp) (教職教育研究センター 南本)